

**第9回 大井川流砂系総合土砂管理計画検討委員会
議事要旨**

日時：令和5年2月17日（金）13：30～15：30

Web 会議

【議事】

1. 大井川流砂系総合土砂管理計画検討委員会規約の変更（案）
2. 本会議の論点
3. 総合土砂管理計画の位置づけ
4. 第一版のフォローアップ
5. 第二版の検討
6. 今後の予定

【議事要旨】

1. 大井川流砂系総合土砂管理計画検討委員会規約の変更（案）

事務局説明 事務局より、大井川流砂系総合土砂管理計画検討委員会規約について変更（案）を提示、作業部会の設立について提案

主な意見等 規約の変更（案）について同意

2. 本会議の論点

事務局説明 事務局より、大井川流砂系総合土砂管理計画の本委員会の論点について説明

主な意見等 特になし

3. 総合土砂管理計画の位置づけ

事務局説明 事務局より、総合土砂管理計画の位置づけについて説明

主な意見等 特になし

4. 第一版のフォローアップ

事務局説明 事務局より、第一版のモニタリングについて説明

主な意見等

(1)モニタリング全般

- 「モニタリングの実施について、特に継続的に注視していかなければならない箇所を設定し、時空間的に密な調査頻度を設定していくことが良い」旨の意見

(2) 水文関係

- 「潮位面のモニタリングについては、検潮所の基準面の高さの変化を併せて確認の上、評価していくことが必要」旨の意見

(3) 土砂生産・流送領域

- 「崩壊地の評価においては面積率で評価する場合、解析上の閾値等で値が変化する可能性があることから、抽出した崩壊地を個々に見ていくことが必要」旨の意見
- 「データを俯瞰的に見たうえで、気になる崩壊地等について個別に報告することが良い」旨の意見

(4) ダム領域

- 「堆砂の進行に伴い生じる課題（発電ダムにおける減電影響、貯水池上流部での治水上の支障）を整理した方が良い」旨の意見

(5) 河道領域

- 「塩郷堰堤の上下流で河床変動の傾向が変化することについて、今後分析をしていくことが必要」旨の意見
- 「河床変動の変化傾向に加え、河床材料の変化も重要な物理環境であるため、注視してモニタリングしていくことが必要」旨の意見
- 「狭窄部の影響など、川幅の変化に応じた河道変化の状況を確認することが必要」旨の意見
- 「定期的なモニタリングを実施していくため、管理者間で連携をしながら ALB 等を活用して実施頻度等を調整していくことも良い」旨の意見

(6) 海岸領域

- 「焼津港近くの海部の侵食について、測線の向きや断面形の変化を確認しておくことが良い」旨の意見
- 「岸方向の移動に併せて、沿岸方向の移動を評価していくことが良い」旨の意見
- 「海床材料の調査についても調査位置等を明確にし、適切に評価をしていくことが必要」旨の意見
- 「連携して実施した対策等の効果について報告があると良い。また、その効果を評価する地点を考慮して調査箇所を考えていく必要がある」旨の意見
- 「アカウミガメの産卵については、調査位置や手法等とともに、モニタ

リング結果を報告する必要がある」旨の意見

5. 第二版の検討

事務局説明 事務局より、第二版の検討について説明

主な意見等

- 「実施する対策を予め想定し、その対策を評価可能なモデル構築が必要になる可能性がある」旨の意見
- 「各領域の対策とは別に、流砂系一貫で検討を進める上では、現状のモデル構成で土砂動態の概要を把握し、各管理者において個々領域の詳細を検討していくことが必要となる」旨の意見
- 「土砂生産・流送領域はデータがない中での検討を進めていくことになるため、流入土砂量の評価に当たっては流域面積比での算定で問題ないと考えますが、流域内に分布する崩壊地の面積から補正率を考慮していくなど、検討を進めてほしい」旨の意見
- 「河床変動計算の断面設定にあたっては、単純な補間のみでなく、計算上の支配断面を設定するなど、検討する必要がある」旨の意見

6. 今後の予定

事務局説明 事務局より、今後の予定について説明

主な意見等

- 「大井川流砂系協議会や情報連絡会議等、関係者間での情報共有や調整が重要となるため、会議間の連携を深めていくこと」旨の意見

以 上